

## 本時のねらい

・表現技法や描写、童話の冒頭部の表現特性を観点として、他者が創作した童話の冒頭部を分析的に読み、その価値や改善点を評価文として記述し相手に伝えることを通して、効果的な表現方法についての理解を深めたり技法を身につけたりすることができるようになる。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・創作した作品への評価活動をオンライン（Teams）上で行うことで、他者からの評価を即時に一覧で見ることができ、価値に気づいたり反省に活かしたりすることができる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・Microsoft Teams ・Microsoft Word

## 本時の展開

| 学習の流れ       | 主な学習活動と内容  | ICT 活用のポイント・工夫  |
|-------------|--|---|
| 導入<br>(8分)  | 1.学習内容の確認<br>・友だちの作品を読み、今まで学んだ表現の工夫に着目して、評価を伝える。<br>・友だちからの評価を読んで、自分の作品の新たな価値やさらによくなる場所に気づく。   | ・Teams に作品数分の「評価ファイル」を作成しておく。<br>・評価文の記入に使う Word ファイルは事前にダウンロードし OneDrive に保存させておく。   |
| 展開<br>(37分) | 2.生徒の作品（童話の冒頭部）を読み評価する。<br>・それぞれが作った作品を読み、Word ファイルに評価する。<br>（表現技法や描写について・アドバイスや改善点・感想）<br>【写真 1】【写真 2】<br>3.評価文を Teams 上で送信・受信する。<br>・自分の作品に送信される評価文を確認する。<br>(2・3 を繰り返す) | ・評価したファイルは、生徒が Teams に順次投稿していくと、新たな投稿がどんどん追加されて必要なファイルが探しにくくなるため、評価専用のファイルに保存させる。<br>・自分の作品に送信、集約された他者からの評価を比べることで、自分の作品の価値に気づくとともに、受けた評価の観点や内容を、また他の作品への自分の評価に活かすことができる。【写真 3】 |
| まとめ<br>(5分) | 4.本時の振り返り<br>・以下の観点で本時の振り返りを書く。<br>①他の作品へ評価する活動を通して得た気づきや学び<br>②自分の作品に対する評価を読んで得た気づき・価値  | ・振り返りは Teams で送信する。   |

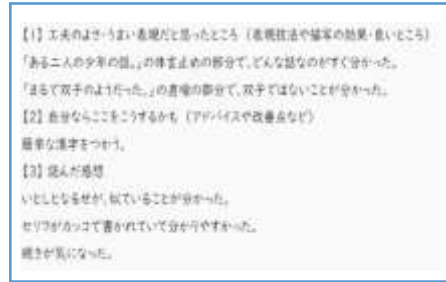
## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】：作品を読み合っている場面



【写真 2】：評価を入力している様子



【写真 3】：投稿された相互評価について

## 児童生徒の反応や変容

・相互評価の送受信が瞬時にできること、また、届いた評価を何度でも確認できるので、他者評価を確認しながら自身の文章表現を修正することができた。  
・他者への評価文も確認できることから、どのような文言が評価文としてふさわしいのかを意識しながら書く生徒が多かった。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・これまでの相互評価では、作品を順番に一人ずつ発表していき、成果物を黒板に貼って全体で見たり、ギャラリーウォークを行うなど活動の効率があまりよくなかったが、本授業では、ICT を活用することによってすべての生徒が自分のペースで、自分の端末で同時に評価することができるので、効果的である。  
・入力した評価等、何度でも見返すことができるので、作品鑑賞、相互評価の一つの方法として有効である。